

福祉文教常任委員 北野 めぐみ

1 神奈川県大和市 大和市立引地台中学校分教室

「学びの多様化学校（不登校特例校）について」

- ・この教室では、その子のやりたいという意志を尊重し、教師が押し付けるようなことはしない方針である。学力よりも生活力を重視した教育方針で取り組んでいる。3年間の中学校在籍期間が終了した後は、青少年相談室のケースとして継続相談をしているとのこと。3年間の期限付きの指導で終わることなく、その後の支援が継続していくという取り組みが、大変に素晴らしいと思った。
- ・家庭訪問においては、児童生徒本人に会うことができない場合でも、保護者と話すコミュニケーションの時間を継続していくことで、本人たちも学校とのつながりを切ることなく意識し続けることができるのだと思った。
- ・学校へ迷惑をかけていると感じている保護者が、担任の先生方に謝る姿を見る児童生徒は、自分の不登校のために親が謝っている姿を敏感に感じ取るため、余計に問題を深めてしまうことになる。そのようなことにならないために、保護者の意識改革が重要であるとの指摘は大切であると感じた。

2 神奈川県川崎市 川崎ラシクル（官民共同運営）施設見学

「運営面の仕組み、評価課題などについて」

- ・この川崎ラシクルという施設では、託児所が用意されており、母親という立場の職員も、安心して働くことができるようになっていて、良いと思った。
- ・担当者が変わらないで、いつも顔見知りの職員がそばにるようにして、入居者が安心できる環境が整っていることが、よく配慮されている施設であると思った。今後、利用者が増加していく傾向にあることを考えると、このような施設がより多く設けられると良いと思う。
- ・南部日中活動センターでは、仕事の準備段階を訓練する場として用意されていて、社会へのスムーズな適応を進めていかれるところになっていると感じた。

3 神奈川県川崎市 川崎市子ども夢パーク

「子供の権利条例との関係、行政のかかわり」

- ・子供に対して、前もって「これはだめ」「これは危ない」といった注意をするのではなく、怪我をした場合でも、「この次はやめよう」「こうしよう」と経験から学ぶことを重視した教育をしていた。子どもたちの姿が生き生きとしていたのが印象的であった。
- ・夢パークという施設にかかる費用についての支援体制がしっかりとしていることが、素晴らしいと思った。
- ・子供の権利条約を採択した後、早くから各部門における子ども会議が開催されたり、「川崎子ども人権集会」が開催されるなど、子どもの視点を重視した取り組みをされており、未来を担う子どもたちの育成に力を注いでいることに、感銘を受けた。
- ・不登校の児童生徒というと、これまで暗い雰囲気を感じていたが、ここで生き生きと生活をしている児童生徒の姿を見たとき、マイナスイメージは違うのだと思い、考えを改めさせられた。

全体を通じて

- ・今回の視察を通じて、少子化や核家族化という生活環境が変化してきているこの時代で、学校への登校が当たり前であるという考え方が、変わってきているのではないかと思った。
- ・通常学校に通えなかったからと言って、その子の人生が良くない方向へ行ってしまうという固定観念ではないと感じた。いろいろな進むべき道があり、それぞれのその道で、その子の幸せな人生を獲得できる教育環境が整っていくことを願いたい。